

# 虎溪用水の今昔

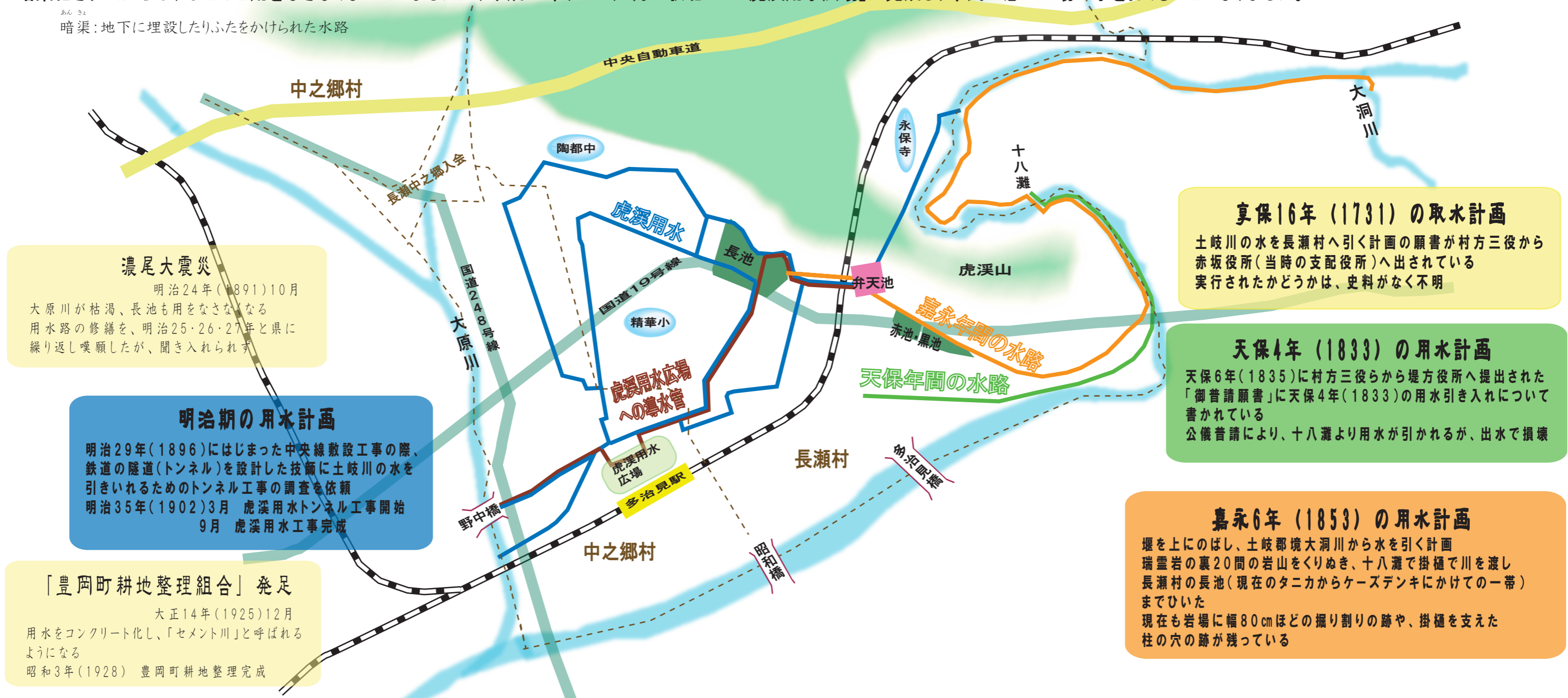
江戸時代、多治見の村々ではどこも水が不足していましたが、とりわけ長瀬村は幾世代にもわたり深刻な水不足に悩まされてきました。

土岐川から水を引く計画がいくたびも立てられましたが、高低差が激しい地形のため、困難を極めていました。

虎溪用水は明治35年(1902)の完成以来、周辺の田畑に広く水を届け、長瀬地区の市街地化が進んでからは、防火や防疫、生活排水路に使われるなど人々の生活に重要な役割を果たしました。

暗渠化されてからは、ほとんど用をなさなくなりましたが、平成28年(2016)6月に駅北口の「虎溪用水広場」が完成し、市民の憩いの場へ水をおくることになりました。

暗渠: 地下に埋設したりふたをかけられた水路



## 享保16年(1731)の取水計画

土岐川の水を長瀬村へ引く計画の願書が村方三役から赤坂役所(当時の支配役所)へ出されている  
実行されたかどうかは、史料がなく不明

## 天保4年(1833)の用水計画

天保6年(1835)に村方三役らから堤方役所へ提出された「御普請願書」に天保4年(1833)の用水引き入れについて書かれている  
公儀普請により、十八灘より用水が引かれるが、出水で損壊

## 嘉永6年(1853)の用水計画

堰を上へのぼし、土岐郡境大洞川から水を引く計画  
瑞霊岩の裏20間の岩山をくりぬき、十八灘で掛樋で川を渡し  
長瀬村の長池(現在のタニカからケースデンキにかけての一带)までひいた  
現在も岩場に幅80cmほどの掘り割りの跡や、掛樋を支えた柱の穴の跡が残っている

## 濃尾大震災

明治24年(1891)10月  
大原川が枯渇、長池も用をなさなくなる  
用水路の修繕を、明治25・26・27年と県に繰り返し嘆願したが、聞き入れられず

## 明治期の用水計画

明治29年(1896)にはじまった中央線敷設工事の際、鉄道の隧道(トンネル)を設計した技師に土岐川の水を引き入れるためのトンネル工事の調査を依頼  
明治35年(1902)3月 虎溪用水トンネル工事開始  
9月 虎溪用水工事完成

## 「豊岡町耕地整理組合」発足

大正14年(1925)12月  
用水をコンクリート化し、「セメント川」と呼ばれるようになる  
昭和3年(1928) 豊岡町耕地整理完成

郷土のことについて調べるなら

# 郷土資料室へ

地元に関する資料や市民の皆様から寄せられた文書や記録などを整理し保管しています。保管資料は利用者の方の調べ学習・研究などにもご利用頂けます。地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までお問合せ下さい。市民の皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供も募集しております。

多治見市図書館郷土資料室

【場所】 多治見市豊岡町1-55 ヤマカまなびパーク4階 JR多治見駅より徒歩5分

【電話】 0572-23-3783 【開室時間】火～土曜日 10時～17時(日・月・祝日・年末年始は休室) ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください